

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



梅雨の時期の衛生管理

病原体やカビ類が繁殖しやすい梅雨から夏の時期。晴れた日は温度と湿度が上昇するため昼夜の体感温度差が大きく、家畜はストレスから体調を崩しがちです。また下痢や皮膚炎、肺炎なども起こりやすく、予防及び畜舎の衛生管理に注意が必要です。

● オールアウト時の徹底消毒

一般的な細菌やカビは水分と栄養のある状態で増殖します。細菌やカビの栄養源といえば、湿った飼料や動物の糞便、ホコリ等です。畜舎の中では、給餌器・飼槽内の残餌やホッパー内に付着した飼料(写真1)、舎内通路や長靴の糞便汚れなどが栄養源の多い所です。天井や壁のホコリやクモの巣も微生物にとっては格好のすみかになります(写真2)。

畜舎の衛生対策の基本は清掃

写真1. 飼料がこびりついたホッパー



ホッパー内に付着した飼料は微生物の栄養源となる

と消毒です。病原体が繁殖しやすくなるこの時期、畜舎内の大掃除を行いましょう。オールアウト時に微生物の栄養となる糞便や飼料などの有機物を洗浄によって除去し、有効な消毒薬で隅々まで消毒

します。普段の管理では行っていないような飼料ホッパーの分解清掃や、天井・壁の清掃、消毒も行うと良いでしょう。天井や壁の消毒には発泡消毒や石灰乳塗布が有効です。また、洗浄や消毒の後に乾燥を十分行う事は消毒効果を高めるためにも重要です。

● 日常管理での注意点

日常管理では給餌器内に変敗した残餌が無いように給餌器の状況を見回り、新鮮な飼料を給与できるようにします。

飼料タンク内は飼料が均等に落下しない場合、塊部分が生じてカビが発生しやすくなるので、タン

写真2. 畜舎内のクモの巣



天井や壁のホコリやクモの巣は微生物にとって格好のすみかになる

クを外から軽く叩いて塊部分を落とす作業も必要です。飼料タンク内面に飼料の粉末が多量に固着する場合には、タンク内の清掃を行いましょう。粗飼料や紙袋飼料は直射日光を避け、風通しがよく濡れない場所で保管し、地面に直接置かずスノコなどの上に置きましょう。畜舎内の湿度や温度が高い場合は換気も必要です。夏になると日中の日差しで飼料タンクの温度が上がります。飼料タンクの温度上昇を少なくするために飼料タンク用の遮熱シートや遮熱塗料といった資材もあり、使用する場合は夏本番となる前に準備をしましょう。